

1 1月全校朝会講話（開校69周年記念朝会）

「誇りを胸に」

おはようございます。先月末の合唱コンクールではどのクラスも心を合わせて本当によく頑張り、素晴らしい歌声を響かせてくれました。今日この後、3年5組の合唱楽しみにしています。また吹奏楽部は、10月31日に名古屋で行われた全国吹奏楽コンクールに出場、見事金賞に輝き日本中に朝霞第一中学校の名を轟かせてくれました。吹奏楽部は、今日は別の大会でいませんが、大会に向かっている人たちに届くように大きな拍手を送りましょう。

さて今日は開校記念日です。朝霞一中が開校してから69年が経ちました。来年は70周年という節目を迎えます。そこで今日は「誇りを胸に」という話をします。

先ほど話した合唱コンクールの成功も吹奏楽部の活躍もそれぞれ懸命に取り組んだことが素晴らしい結果に結び付き「自信」になったことでしょう。そしてその自信は形を変えて自分たちが朝霞一中生の生徒であるという「誇り」へとつながっていくのだと思います。今日はその誇りにつながる2つのエピソードを紹介します。

先週のことです。学校に2通の手紙が届きました。1通は朝霞市内に住む89歳の女性からのものでした。その女性は7月の雨の降る日に島の上公園の下の入り口で転んでしまい、立てずに困っていたそうです。その時たまたまそこを通りかかった男子中学生が「どうしたの」と声をかけ、そのおばあさんをおんぶして公園の中腹にある屋根とベンチのあるところまで連れて行ってくれたそうです。おばあさんはその後、救急車で病院に運ばれ、足の骨折で2ヶ月間入院をしたそうです。その

時は気が動転してお礼も言えなかったおばあさんは10月に読売新聞の投書欄に投書され、公園の近くの朝霞第三中学校にその生徒を探してほしいと手紙を書かれました。島の上公園は朝霞三中と本校の境に位置しているので最初は三中に手紙が届き、その生徒を探したのですが、いないということで11月4日に三中から手紙が回ってきました。調べてみるとその生徒は一中の三年生の男子であることが分かりました。次の日の朝本人を呼んで校長室で確認したのですが、「当たり前のことをしていただけなのであまり他の人には話していない。学校で取り上げる時も自分の名前を出さないでほしい」と恥ずかしそうにしていました。そのおばあさんの家族に連絡を取り、明日学校でおばあさんとその生徒が対面することになりました。

2つ目の手紙はその3年の生徒が分かって連絡を取っている最中の11月5日に届きました。練馬区にお住まいの72歳の女性からでした。11月1日の日曜日にお通夜があつて朝霞に来られたあとに駅までの帰り道が分からなくなって困っていた時に通りかかった自転車の女の子が、「少し遠いから一緒に行きましょう」と自転車を押して駅まで連れて行ってくれたそうです。道すがら合唱コンクールの話や部活動の話をして楽しく駅まで送ってもらったおばあさんはそのお礼の手紙を学校と本人あてに下さいました。その女の子も本校の2年生の生徒でした。手紙を見せるとその子は喜んで返事を書きたいと言っていました。

さてこの二つの話を聞いてみなさんはどう感じますか。もちろん困っている人がいたら手を差し伸べるのは当たり前ですが、その当たり前のことがなかなかできないのが現実です。そんな世の中で二人の一中生が取った行動を私は本当に「誇り」に思います。朝霞一中の目指す学校像は「誇りを胸に未来に向かって前進し続ける

学校」です。みなさんは朝霞第一中学校の生徒である自分自身に誇りを持っていますか。今年、学校は大きく変わりました。そのことは生徒のみなさんも先生方もよくわかっていることと思います。でも学校の中にいる私たちはわかっている、外から見た評価が変わらなければ本当の意味で誇りは持てないのかもしれませんが。

この間のクリーン大作戦の時に地域の人から「ありがとう」とか「御苦労さま」と声をかけてもらった人も多くいたようです。私たちは自分たちが一生懸命やっていることを他から認めてもらったときに「自信」を持ち、それがやがて「誇り」に変化するのだと思います。

開校記念日に当たり、今の君たちを誇りに思いますし、君たちにも是非「誇りを胸に」もって生活してほしいと願っています。 終わります。